

PTA 会員の皆様

世田谷区立千歳小学校
PTA 会長 新井 佑 彌
家庭教育学級担当役員 砂古優子

2020年度 家庭教育学級 開催のご報告

早春の候、PTA 会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
2月5日に、家庭教育学級として『親の学び性と生～子どもの性への興味や身体の変化とどう向き合うか～』をテーマとした講演会を開催いたしました。講師には宗藤純子先生をお招きし、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策としてZoomにて配信いたしました。

講演は、①今の子どもは性についてどこまで知っていてどう考えているか、②子どもから性について聞かれたらどう答えたらよいか、③親が性教育をする必要性はどのくらいあるか、④性教育はいつからどのようにしたらよいか、といった性教育についての保護者の疑問に答える内容でした。

宗藤 純子 (むねとう じゅんこ) 先生

- 私立幼稚園教諭・主任9年を経て保育士・子育てアドバイザーとして乳幼児期～思春期までのこども・家庭支援に約30年従事。
- 行政・百貨店・教育現場・PTA家庭教育・子育て支援者向け等講演・講座は、テーマも多岐にわたり多数講演。
- 地域での子育て支援サークルと親子活動・3歳児保育活動等約25年主宰。
2010年「神奈川県かながわ子育て支援大賞・奨励賞」授与。
- 鎌倉市の産科診療所で、妊娠前、産前産後・思春期講座・大人女性・更年期講座等切れ目ない支援に約11年。2009年より教育現場等でのいのちの授業を年齢対象に伝える。
- ◆2018年保育者向け雑誌「POT」のあそびパーク012寄稿担当
- ◆2019年度より短期大学にてこども教育学科・非常勤講師

① 今の子どもは性についてどこまで知っていてどう考えているか。

学校で子どもたちが性についてどのように教わっているか、保護者には分かりにくいと思います。
ユネスコでは、性教育を受けることは基本的人権とされ、国際基準として、

1. 5～8歳で赤ちゃんがどこから来るか説明する
2. 9～12歳でどのように妊娠するのか、それを避けられるかを説明し、避妊方法を確認する
3. 12～15歳で妊娠の兆候、胎児の発達と分娩の段階を説明する

とされていますが、日本では今でも「妊娠の経過については取り扱わない」という方針になっています。
小学4年生で思春期の二次性徴、つまり月経や精通などについて学校で習い、理科で受精卵を学習しますが、中学校過程においても性的接触のことは触れられません。

② 子どもから性について聞かれたらどう答えたらよいか。

5歳で8割の子が「赤ちゃんはどこから来るの?」と尋ね、小学生のうちにSEXという単語を使って尋ねてきます。

子宮は「命のお部屋」であり、女の人(お母さん)の卵と男の人(お父さん)の卵が会ってできた0.1mmの卵が命、つまりあなた(赤ちゃん)であり、「命のお部屋」で大切に育ち、やがて「命の道」を通って出てくるということを教えてあげてください。その時、命は性で始まる、つまり代々繋がれてきた命であることを伝え、「生まれてきてくれてありがとう」「大切なあなた」という気持ちで話してあげると、自分が今いることの大切さが分かり、子どもの自己肯定感も育まれます。

③ 親が性教育をする必要はどのくらいあるか。

性的なことは、恥ずかしい、いやらしいテーマとなりがちですが、男女ともに身体に起こることは、命に繋がる素晴らしいことであるため、未来ある子どもたちに対して、ポジティブに話してほしいです。

ただし、性教育とは性的な接触のことを意味するだけではなく、命を守っていく力をどう備えるか、を伝えて

いくことです。性教育とは、生まれたときから始まる人間教育であり人権教育と捉えています。

性という字は「心」が「生きる」と書きます。つまり、その人が心のままに自分らしく生きるということです。

基本的な人権を基盤とした「性の権利」、多様性を前提としたジェンダー平等の視点などを持って「包括的な性教育」を大事にし、どのような性であっても、生まれてきてくれたことが大事、心が生きることが大事だということ、そして性についても選択肢を持てる力が今を生きる大切な力であることを親がまず認識することが大事です。

私たち親が子どもだった頃と違い、今の子どもたちは、性的なことについて、ネットで知ることが多いです。情報が溢れている今、子どもを守るために、まずは私たち親が学ぶことは大切なことです。

国際社会では国際セクシュアリティ教育ガイダンスから、科学的根拠に基づいたアプローチで13歳までに性教育がされている一方、日本では足りていないこともあり、自分の身の守り方が分からない子どもが多く、深刻な性感染症や予期せぬ妊娠、さらには自殺までもが増加しています。

子どもの人付き合いや、正しい情報を得られているかどうかを把握するためには、とにかく子どもとの「対話」**コミュニケーションが大事です！**ネットの禁止事項ばかりを伝えるのではなく、危険があることを説明し、「何かあれば必ず伝えてほしい。もし何か失敗した時は、あなたを守るから。サポートすることができるよ。」ということ伝えましょう。

正しい情報を信頼できる大人からの言葉で受け取り育った子どもは、自分を大切に、さらには友達など周りの人のことも大切にできる大人に成長できます。

まずは、性のリスクとヘルプ先を親が知ることから。そして、パーソナルスペースの取り方や、「緊急避妊薬」の知識も、まずは親が得ておきましょう。今、性教育に関する親向けのサイトや、医療者の方が監修した著書も増えているので、参考にされると良いと思います。

2021年4月から、日本の教育現場においても性教育が変わろうとしています。「生命の安全教育」が始まる予定です。

子どもを守ることは、「あなたはそのままが良い」という子供の権利条約なのです。子どもには、①生きる権利②守られる権利③参加する権利という3つの「向き合ってもらおう」権利があります。

子どもの発達に大切な自尊感情を育む大切さ。

結果でなく、経過を賞賛することで、性は命の尊厳であることを伝えていきたいですね。

④ 性教育は、いつからどのようにしたらよいか。

年頃だから始める、まだうちの子には早い、というものではなく、生まれてきたときから性教育は始まっていると思っています。

●乳児期に、デリケートゾーンの洗い方などから健康に関わる性教育が始まり、幼児期には、プライベートゾーン（水着で隠れる部分と口）を守ることを教えます。

小さい頃から、「自分の身体のこと。大切なこと。」だと認識してほしいのです。

水着で隠れる部分と口はプライベートゾーンであり、自分だけのものであること。水着で隠れる場所は生殖機能が発達する場所で、その準備が小さい頃から始まっているから、人から触られて嫌な時には「触らないで」「やめて」と言っていいたよ。と伝えてください。触るタッチには、ぬくもりのあるタッチと、嫌なタッチがあります。子どもが「YES」か「NO」を言えることが大事です。

●学童期には、二次性徴（10～15歳程度）で、身体では大人の準備が始まることについて学校でも学習します。家庭では、自分にとっての大事なタイミングで大人の準備が始まることは素晴らしいことであり、競争ではないこと、それと同時にYESかNOかは自分で決める「同意」についても一緒に学べるのが望ましいです。

●15歳の時点では、ほとんどの子が妊娠できる身体、命を授けることが可能な身体になることを子どもたちは知る必要があります。その時期までに、自分や相手を尊重する力を身につけることが大事です。

子ども達が、性への興味や関心を持ち始めたら、「知りたい」のです。親は、「知りたい」時に伝える言葉と知識を備えましょう。男女の身体と心の変化については、お互いに知る必要があります、自宅に絵本を用意しておくのも良い方法です。（その前に、一度ご自身が読んでみてください。）

思春期こそ、親子の対話をし、失敗しても対応策があること、「NO」と言うことの大事さを伝えましょう。

そのうち、子どもによっては成長する過程で親に対して言えないことができる時期がきます。子どもに関わる縦の軸が親や先生、横の軸が友達だとすると、斜めの軸となる信頼できる大人（例えば祖父母や従兄弟、習い事の先生など）を3名作り、その人達に話を聞いてもらい、助言してもらえするのが理想的です。身近にいる大人が、どの子ども達にとってもサポーターの一人であることが願いであり、それが大事になる時代です。

《 お薦めの本 》

- ・ 「子どもを守る言葉『同意』って何？YES、NOは自分が決める！」 レイチェル・フライアン 作
- ・ 「女の子が大人になるとき」 早乙女 智子 監修
- ・ 「男の子が大人になるとき」 岩室 紳也 監修
- ・ 「セクシュアルマイノリティってなに？」 日高 庸晴 監修